

【長野県立病院機構 中期計画収支】

○ 損益の状況

(単位:百万円)

項目	21年度 決算見込	中期計画期間						累計
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度		
経常収入	15,366	15,411	16,202	16,299	16,368	16,428	80,709	
病院別内訳	医業収入	15,366	15,411	16,202	16,299	16,368	16,428	80,709
	須坂病院	4,771	4,859	5,360	5,475	5,488	5,500	26,682
	駒ヶ根病院	1,002	964	1,231	1,268	1,280	1,280	6,023
	阿南病院	1,259	1,204	1,154	1,105	1,156	1,211	5,829
	木曽病院	3,510	3,515	3,508	3,501	3,495	3,488	17,507
	こども病院	4,823	4,869	4,950	4,950	4,950	4,950	24,668
老人保健施設収入	393	442	443	443	443	443	2,213	
運営費負担金	※ 3,893	5,280	5,100	5,100	5,100	5,100	25,680	
その他の収入	129	273	338	343	353	354	1,662	
計	19,781	21,406	22,083	22,185	22,264	22,325	110,264	
経常費用								
給与費	11,056	10,756	10,947	11,022	11,032	11,030	54,787	
材料費	4,284	4,342	4,398	4,335	4,296	4,256	21,628	
減価償却費	672	2,071	2,357	2,281	2,334	2,359	11,402	
経費	3,189	3,422	3,392	3,403	3,339	3,285	16,841	
支払利息	756	699	731	734	732	717	3,611	
その他の支出	483	206	225	227	231	235	1,124	
予備費	0	0	105	105	105	105	420	
計	20,440	21,496	22,155	22,107	22,069	21,986	109,814	
経常損益	△ 659	△ 89	△ 72	78	195	339	450	
臨時								
臨時的利益	0	1	1	1	1	1	3	
臨時的損失	18	192	156	3	228	1	580	
純損益	△ 677	△ 281	△ 227	75	△ 33	339	△ 127	

※ 21年度は、負担金の一部を資本的収入として1,362百万円計上している。(21年度負担金総額 5,255百万円)

○ 投資の状況

駒ヶ根・阿南病院改築	651	2,411	986	1,462	377	0	5,236
その他の施設整備	80	286	143	143	143	143	856
医療機器等購入	683	1,165	1,214	667	1,419	671	5,137
投資額 計	1,414	3,862	2,343	2,271	1,938	814	11,229

○ 資金収支の状況

現金収入	22,536	25,262	24,410	24,437	24,170	23,107	121,385
現金支出	23,185	25,564	24,369	24,273	24,086	22,840	121,133
差引き	△ 649	△ 302	41	164	83	267	252

収入見込のポイント

須坂病院	産科再開効果による増収(含む小児科)	増収額	84百万円	22・23年度
	内視鏡センターの設置	増収額	55百万円	22年度
	内科医増に伴う収入増	増収額	336百万円	22年度～
	7対1看護体制の導入	増収額	250百万円	23・24年度
駒ヶ根病院	急性期病棟・医療観察法・児童思春期など入院単価の高い病棟構成に変化	増収額	240百万円	23年度
	大規模デイクア(50人)の実施による増収	増収額	40百万円	24・25年度
阿南病院	建替工事期間(H23～24)は患者数減少、改築後は改築効果で患者数は増加			
木曽病院	現状の医療機能は維持するが、人口減少が続くため、患者数は微減			
こども病院	現状以上の患者数の増加は困難であり、現状並みの患者数			
老人保健施設	理学療法士等を増員することにより、増収を図る(職員からの提案による)			

支出見込のポイント

給与費	診療報酬算定のメリットを享受できる職員配置及び職員の負担軽減に配慮した適正人員で積算
	22年度から給食業務等を委託化することにより、技能労務職員は皆減
医薬材料費	他病院の値引率を目標として、23年度から毎年1%削減
減価償却費	償却方法の変更(「みなし償却」→「フル償却」)により大幅増加
経費 委託料	給食等現業部門を委託化することにより増加(給与費の減少分とほぼ同額)
賃借料	医療機器の再リース等の活用により減少
臨時的損失	駒ヶ根病院、阿南病院の改築に伴う既存建物の除却損(564百万円)が発生

投資見込のポイント

駒ヶ根病院、阿南病院の改築費用を計上
 駒ヶ根病院(22年度)、須坂病院(23年度)、阿南病院(25年度)に電子カルテシステムを導入
 医療器機の投資額は、過去15年間の購入実績額の推移を踏まえ、病院ごとに医業収益に一定率を乗じた額を計上

中期目標の達成状況

- 中期目標期間内に経常収支比率100%以上を達成すること
 → 平成24年度に経常黒字を達成
- 中期目標期間内の資金収支を均衡させること
 → 資金収支の期間累計で、252百万円の黒字

病院別 中期計画収支概要

【長野県立病院機構 中期計画収支】

(単位:百万円)

項目	21年度 決算見込	中期計画期間					累計	
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度		
須坂病院	経常収入	5,304	6,008	6,528	6,650	6,724	6,732	32,642
	うち医業収入	4,771	4,859	5,360	5,475	5,488	5,500	26,682
	経常費用	5,678	6,056	6,395	6,440	6,359	6,330	31,581
	経常損益	△ 373	△ 48	133	209	364	401	1,060
	純損益	△ 382	△ 48	127	209	364	401	1,052
	資金収支	△ 374	△ 205	142	248	208	173	566
駒ヶ根病院	経常収入	1,602	1,755	1,829	1,930	1,940	1,937	9,390
	うち医業収入	1,002	964	1,231	1,268	1,280	1,280	6,023
	経常費用	1,667	1,827	2,008	2,051	2,062	2,054	10,002
	経常損益	△ 65	△ 73	△ 179	△ 121	△ 123	△ 118	△ 613
	純損益	△ 70	△ 265	△ 188	△ 121	△ 123	△ 118	△ 814
	資金収支	△ 56	△ 36	△ 106	△ 19	△ 43	18	△ 186
阿南病院	経常収入	1,714	1,757	1,703	1,657	1,762	1,796	8,676
	うち医業収入	1,259	1,204	1,154	1,105	1,156	1,211	5,829
	経常費用	1,954	1,645	1,669	1,646	1,826	1,849	8,634
	経常損益	△ 240	112	34	11	△ 63	△ 53	41
	純損益	△ 240	113	△ 106	11	△ 290	△ 53	△ 325
	資金収支	△ 269	59	△ 23	△ 28	20	29	58
木曾病院	経常収入	4,149	4,379	4,404	4,376	4,365	4,357	21,882
	うち医業収入	3,510	3,515	3,508	3,501	3,495	3,488	17,507
	経常費用	4,373	4,174	4,218	4,195	4,075	4,077	20,739
	経常損益	△ 223	205	187	181	290	280	1,143
	純損益	△ 223	205	187	180	290	280	1,141
	資金収支	△ 269	25	110	103	164	258	660
こども病院	経常収入	6,559	6,831	6,846	6,871	6,838	6,822	34,208
	うち医業収入	4,823	4,869	4,950	4,950	4,950	4,950	24,668
	経常費用	6,276	6,873	6,948	6,890	6,871	6,809	34,391
	経常損益	283	△ 42	△ 102	△ 19	△ 32	12	△ 183
	純損益	279	△ 42	△ 102	△ 19	△ 32	12	△ 183
	資金収支	345	77	48	55	16	△ 6	190

須坂病院の収支のポイント

- 7対1看護体制の導入、内視鏡センター設置、産科再開効果等で医業収入は大幅に増加
22年度→26年度 729百万円、15.3%増加
- 看護師が増加するため支出も増加するが、24年度をピークに若干減少(医薬材料費の削減効果)
- 経常損益・資金収支とも23年度から黒字化
(資金収支の増減は、退職金支払見込額の増減による)

駒ヶ根病院の収支のポイント

- 急性期病棟・医療観察法など入院単価の高い病棟構成に変化することや大規模ケアの実施等により、病床数は減少するものの医業収入は増加
- スタッフの増加や改築後の減価償却費負担増により支出も増加
- 経常損益は、中期目標期間を通じて黒字化は見込めないものの、年々回復傾向
- 資金収支は、若干の赤字で推移するが、26年度には黒字化の見通し

阿南病院の収支のポイント

- 医業収入は、建替工事期間は減少し、改築後は改築効果で増加するが、精神病棟の休止もあり21年度の水準までは、回復しない見通し
- 24年度まではスタッフの減少もあり支出は現状と比較し減少するが、改築後は減価償却費が増加
- 経常損益は、黒字で推移するが、改築後は減価償却費増により赤字となる見通し
- 中期目標期間内の資金収支は均衡している。(年によりバラツキはある)

木曾病院の収支のポイント

- 医業収入は人口減少傾向のため微減
- 医薬材料費の削減やリース料の減少により、支出は収入以上に減少
22年度→26年度 収入:△22百万円 支出:△97百万円
- 経常損益・純損益・資金収支の全てにおいて、毎年黒字の見通し

こども病院の収支のポイント

- 医業収入は微増(現在の病床利用率は87%であり、大幅な患者の増加は難しい)
- 支出は、21年度と比較し大幅に増加するが、23年度をピークに減少傾向(医薬品削減効果)
(5病院の中で償却方法変更の影響を最も受けている)
- 経常損益は、赤字基調であるが回復傾向であり、最終年度には黒字化の見通し
- 資金収支は、ほぼ毎年黒字(期間内の資金収支は均衡)